

ボード会議議事録

外部評価としてのまとめ

令和5年4月26日
東京大学先端科学技術研究センター

令和4年度に係る業務の実績に関するボード会議助言・意見

○令和4年度に係るボード会議の内容……………P3

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

Ⅰ. 評価の項目……………P5

Ⅱ. 評価の分析……………P6

○令和4年度に係るボード会議の内容

東京大学先端科学技術研究センター(先端研)のボード会議は、運営状況を常時把握し、運営全般に対する助言及び評価を行っている。

本年度は、下記の日時において会合を開催した。また、当日ご欠席のメンバーについては、日時を改め、助言および評価を得た。

日 時:令和4年 11 月 16 日(水) 16:10~18:00

*15:30-16:10 まで、先端研の1号館の先端アートデザイン分野研究室、風洞実験室
13号館に設置の車椅子昇降機、4号館に新設の RCAST 学堂、4号館のコロナ
ウィルス実験室を視察した。

場 所:先端研4号館2階講堂および ZOOM による TV 会議で実施した。

出席者:以下のとおり。

【ボードメンバー】

| 氏名 | 職名 |
|--------|------------------------------|
| 蒲島 郁夫 | 熊本県 知事 |
| 小泉 英明 | (株)日立製作所 名誉フェロー |
| 澤 和樹 | 東京藝術大学 顧問 |
| 中島 さち子 | (株)steAm 代表取締役、音楽家(ジャズピアニスト) |
| 中村 道治 | 科学技術振興機構 名誉理事長 |
| 藤井 眞理子 | 東京大学名誉教授 |
| 松本 洋一郎 | 外務大臣科学技術顧問(外務省参与) |
| 増田 寛也 | 日本郵政(株) 取締役兼代表執行役社長 |
| 武藤 敏郎 | (株)大和総研 名誉理事 |

【先端研】

| 氏名 | 職名 |
|--------|---------------------|
| 杉山 正和 | 所長、教授(エネルギーシステム分野) |
| 近藤 高志 | 副所長、教授(高機能材料分野) |
| 西増 弘志 | 教授(構造生命科学分野) |
| 稲見 昌彦 | 教授(身体情報学分野) |
| 有田 亮太郎 | 教授(計算物質科学分野) |
| 岩本 敏 | 教授(極小デバイス理工学分野) |
| 中村 尚 | オブザーバー、教授(気候変動科学分野) |

| | |
|--------|-------------------|
| 土橋 久 | 特任教授 経営戦略企画室 室長 |
| 竹元 龍太 | 事務長 |
| 海老澤 幹夫 | 特任専門員 経営戦略企画室 副室長 |

欠席された下記のメンバーと別途会合をした日は、次のとおりである。

| | |
|--------|---|
| 浅川 智恵子 | 日本科学未来館 館長、IBM フェELLOW 会合の日:令和5年1月16日(月) |
|--------|---|

○令和4年度に係るボード会議の内容（会議議事次第・内容）

◆16:10

ー17:30 事業報告(プレゼンテーション)

藤井委員が杉山所長より議長として指名されて、議長となった。

杉山所長より、資料に基づきプレゼンテーション形式にて、先端研の事業報告を行った。

◆17:30ー18:00 事業報告(質疑応答)

ボード会議からは、先端研の現状を踏まえて、組織運営、教育研究活動に対して総合的な観点から多くの有益なご意見、ご助言をいただいた。「外部評価」としてまとめ分析することができた。

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

I. 評価項目

ボード会議メンバーの意見を助言および評価として、つぎの内容としてまとめた。

| | 項目 | 助言、評価の内容 |
|---|-----------|---|
| 1 | 研究力 | <ul style="list-style-type: none"> ● 先端研の時代の要請にあった、インクルーシブな研究活動、研究分野を超えた文理融合の研究活動が評価された。 ● 研究エシックスを、目標課題として検討すべきとの助言があった。 ● 日本の、世界の先端研となるべきとの意見があった。 |
| 2 | 人事体制 | <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な意見が出る会議を企画運営できる、先端研独自のマネジメントシステムが評価された。 ● 女性教員の採用増などダイバーシティへ向けた取り組みを検討するよう意見があった。 |
| 3 | 財務体制・社会連携 | <ul style="list-style-type: none"> ● JST の大型プロジェクトを URA が支援して獲得できたことが評価された。 ● 地域課題の解決をめざす地域連携の展開を進めることや、産業界との連携による資金獲得に対する意見があった。 |
| 4 | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ● 先端学際工学専攻の学生数が多いことが、評価された。 ● 魅力あるキャリアパスの提案をすることについて意見があった。 |
| 5 | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ● 研究活動の広報にあたり、ポスター発表に加えて、体験学習的なものを加味してはとの意見があった。 ● 2025年に開催される大阪・関西万博に向けた取り組みをすることについて意見があった。 |

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

Ⅱ. 評価の分析

研究力、人事体制、財務体制などに対する助言ならびに評価としての観点から、内容を項目別に整理し、次のように分析をすすめた。

| 分析項目 | 内容 |
|------|------------------------------|
| 評価事項 | 優良な、あるいは順調に進行していると評価された内容のもの |
| 検討事項 | 事業推進にあたり検討するものとして助言をいただいたもの |
| 付帯意見 | 事業推進にあたり念頭に置くべき事柄として助言のあったもの |

1. 研究力

先端研では、時代の要請にあった、研究分野を超えた文理融合の研究活動があることが評価された。

| 項目 | 評価事項 | 検討事項 | 付帯意見 |
|-----|--|--|--|
| 研究力 | <p>インクルーシブ社会に対応するなど時代の要請に合わせた研究活動を実施している。</p> <p>先端研の時代の要請にあった、研究分野を超えた文理融合の研究活動が実現している。</p> | <p>「人類の安寧とより良き生存」への新たな研究倫理も目標項目として検討をする。</p> | <p>5年、10年というスパンでのアウトプットに対して、論文インパクトファクターではない、先端研独自の複数軸の自己評価の基準とする。</p> <p>東大の中の先端ではなく、日本あるいは世界の先端研となる。</p> <p>経済安全保障はさまざまな分野で重要であるので、エネルギー安全保障も大切な課題である。</p> <p>文理融合として理想的な研究分野の構成の体制となっている。</p> |

2. 人事体制

さまざまな意見が出る会議を設定できる、先端研独自のマネジメントシステムが評価された。女性教員の採用増などダイバーシティへ向けた取り組みを検討するよう意見があった。

| 項目 | 評価事項 | 検討事項 | 付帯意見 |
|------|---|---------------------|---|
| 人事体制 | 所長と戦略会議メンバーが意思決定する先端研独自のマネジメントシステムがあるからこそ、このボード会議のように多様な意見がでる会議が開ける。社会のニーズや新テーマに迅速に対応できている。 | 女性教員の比率を高めることを検討する。 | ダイバーシティでは、外国人教員の採用も検討する。 予定調和的な人事ではなく、光っている人材が入り、組織が新しく形成されることを期待する。 教員の研究時間を増やす。 |

3. 財務体制・社会連携

地域課題の解決をめざす地域連携や、産業界との連携による資金獲得に対する意見があった。

| 項目 | 評価事項 | 検討事項 | 付帯意見 |
|------|---|-------|---|
| 財務体制 | JST の COI-Next プロジェクトを URA の支援で獲得できたことは評価できる。 | 特になし。 | 地域課題を解決する地域連携をめざす。 企業、産業界への提案を行い、資金を得る方法を構築する。 企業や、自治体とネットワークを強化して、より人材を取り込む。 |

4. 学生教育

先端研に設置されている先端学際工学専攻は、学生募集数などで評価され、また魅力あるキャリアパスの提案をすることの意見があった。

| 項目 | 評価事項 | 検討事項 | 付帯意見 |
|------|--------------------------|------|---|
| 学生教育 | 先端研の専攻において、学生数の多さが評価された。 | 特になし | 学生に魅力あるキャリアパスを示す研究所となる。 より先端研の学際的で先端的な研究力がアピールされるような学生への発信をする。 駒場 I キャンパスや学部生との連携も強化する。 |

5. その他

研究活動の広報にあたり、ポスター発表に加えて、体験学習的なものを加味してはどの意見があった。2025 年開催の大阪・関西万博へ向けた取り組みについても意見があった。

| 項目 | 評価事項 | 検討事項 | 付帯意見 |
|-----|------|------|--|
| その他 | 特になし | 特になし | 研究活動の広報にあたり、ポスター発表だけではなく、体験学習的なものを加味する。 2025 年開催の大阪・関西万博に向けた取り組みを行う。 先端研 2.0, 3.0 へ向けて、大きなジャンプではなく、ステップを重ねる。 アウトリーチを外部機関と連携として、もっと展開する。 |

以上